

寓話フリーサンプル
コーヒーブレイク用



念 福 丸

ねんぶくまる

寝苦しい季節

真夏の、まだ闇が支配する夜明け前。獲物を血祭りに上げた吸血鬼がマントを翻しながら空中を飛んで、自分の屋敷に帰って来ました。

吸血鬼は自分の部屋に入ると、口元の血痕を袖でぬぐい、棺の中に身を横たえました。

「あ、そうだ！」

吸血鬼は、そう言いながら不意に身を起こし、棺のわきにある電気蚊取り器のスイッチを入れました。

教訓 大悪党ほど臆病なものです。

缶ちがい

ある若い女性の部屋に窓から大きなスズメバチが飛び込んで来ました。

女性は悲鳴を上げながらも殺虫スプレーで撃退しようとしたのですが、慌てていたので間違っ
て、ヘアスプレーをスズメバチに噴霧してしまいました。

しかし、スズメバチは羽が固まって飛べなくなり、床にポトリと墜落しました。

スズメバチは、スプレー缶の表示を見上げ、悔しそうに言いました。

「情けない。 "人畜無害" の奴にやられるなんて・・・」

教訓 犯人を捕らえてみれば、まさか、あの人が・・・というケースがありますね。

イジワルな后が退治された後、お城に戻った白雪姫は家来から魔法の鏡の存在を聞きつけ、後の部屋へ直行しました。

「鏡よ、鑑」魔法の鏡の前に立った白雪姫は問いました。「この世で、一番美しいのは誰？」

「それは、もちろん・・・」魔法の鏡は、きらびやかなドレスを着て勝ち誇った白雪姫の姿を映しながら答えました。

「ご試問なされる前のあなた様でございます」

教訓 身に着けるもので謙虚に勝るものではありません。

不吉

真夜中のニューヨークで、悪魔と死神がバッタリ出くわしました。

両者は互いに顔をそむけ合うと、「オー、マイ、ゴッド・・・」と、小声でつぶやきながら足早にスレ違いました。

教訓 信仰は善人だけのものではありません。

ウサギに勝った余勢を駆って、カメがハヤブサにレースを申し込みました。

「身の程知らずが。 思い知らせてやる！」

いきり立ったハヤブサは勝利を宣言して、カメの挑戦を受けましたが・・・
・・・フライングで失格となりカメの連勝となりました。

教訓 ノッてる人の正面には立たないことです。

V字回復

失恋したワシが傷心の余り、上空から投身自殺を図りました。

地面が間近に迫った、その時、一匹の野ネズミがワシの視界を横切りました。

「何だ、失ったのは、これより小物だったのか」

野ネズミを鋭いツメでつかんだワシは、上空へと羽ばたきながら微笑みました。

教訓 目先を変えると当然、景色も変わります。

テイルランプ

仄かな明かりを灯したホタルが闇夜をフラフラと飛びながら思いました。

「ヘッドライトがあればなあ・・・」

教訓 過去を参考にして見る未来は歪んでいます。